

青山学院スカラーシップ

奨学生の声(2015年度)

2016年7月発行

目次

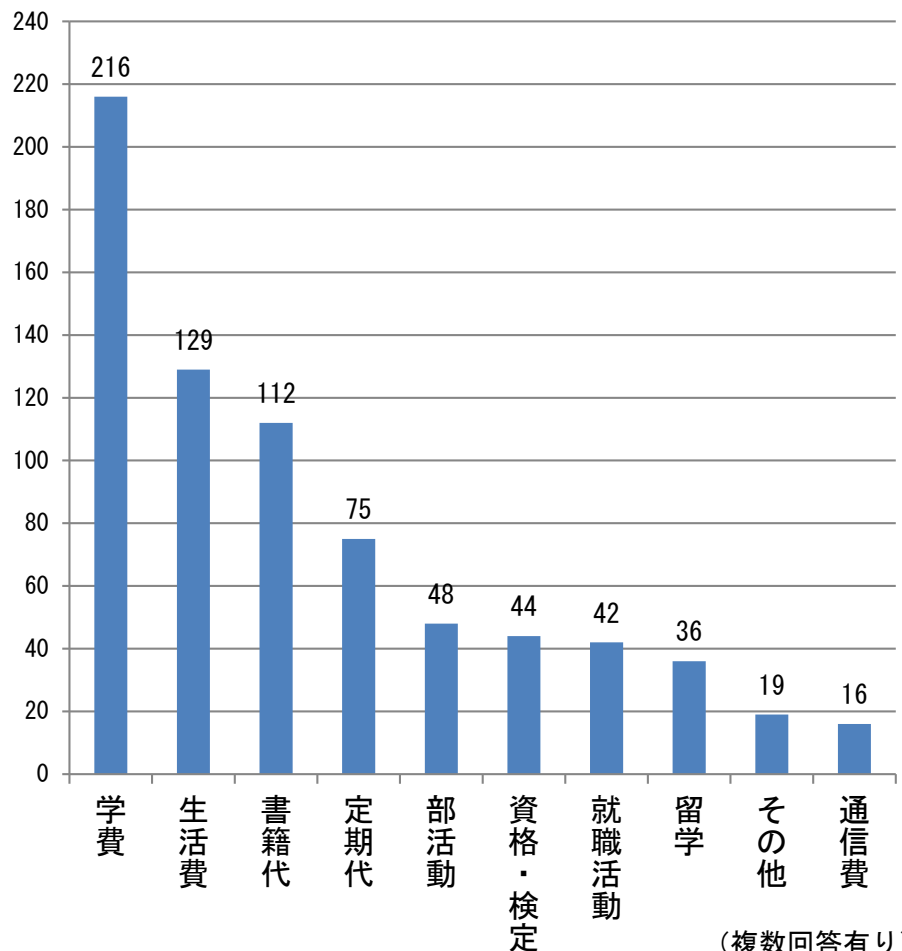
- 1 ごあいさつ
- 2 奨学金の使い道
- 3 アンケート結果まとめ
- 4 奨学生の声(一部抜粋)

1.ごあいさつ

2015年度の青山学院スカラーシップは、新規に17件を加え、62件の冠奨学金が実施され、在校生362名に奨学金を給付することができました。皆さまのご芳志により、多くの学生が充実した大学生活を送ることができております。奨学生の置かれた現状と彼らの声をお届けすることにより、本スカラーシップの意義をご理解いただく一助となれば幸いです。

2.奨学金の使い道

(人数)



右表は奨学生304名からのアンケート結果をまとめたものです。奨学金の使い道として、奨学生の7割が「学費」に、4割が「生活費」に充てており、本奨学金が学生生活を送る上で不可欠であることが分かります。

3.アンケート結果まとめ

第1位 学費 (216人)

奨学金を学費に充てる学生が最も多く、奨学金によりアルバイトの日数や時間が減り、学業や課外活動に費やす時間とお金ができたと回答しています。中には「家計の助けもしなければならず、学業継続に対する不安を抱えていた」と回答した学生もおり、経済面だけでなく精神面での負担軽減につながったという学生の声も聞こえてきました。

第2位 生活費 (129人)

親への負担を最小限にするため、実家住まい・一人暮らしを問わず、アルバイトで生活費を賄う学生が多くいます。学生の抱える不安は大きく、奨学金が「アルバイト漬けの生活から救ってくれた」との声も聞こえてきました。奨学金が金銭面の支援だけではないことを学生はよく理解しています。

具体的にどのように変わったのでしょうか？奨学生の声より一部抜粋

■奨学金を受給できたことによって、週4日、月100時間を超えていた労働時間を週3日に減らすことが出来ました。 (経営学部 3年)

■受給額の20万円という金額は私の2カ月分のバイト代と同じです。私は週4～5日バイトをしていて、テスト期間はもちろんですが、毎日その日の授業の復習、翌日の予習をするのが大変で、睡眠時間を削って頑張っていました。ですが、今回頂いた給付金を月々の生活費の足しにすることで、勉学の時間を無駄なく確保することが出来ました。 (法学部 2年)

■アルバイト漬けの学生生活を覚悟していましたが、ESSの日々の活動や合宿にも参加できる時間とお金ができ、非常に内容の濃い、学ぶことの多い大学生活を送れているように感じます。 (教育人間科学部 2年)

第3位 書籍代 (112人)

授業で使用する教科書以外にも、日々の学習や将来的な目標のためにさまざまな書籍、テキスト類が必要であると回答しています。「奨学金で購入した書籍を用いて学習をし、夢の実現へ努力していく所存です」という決意を聞かせてくれた学生もいました。

第4位 定期代 (75人)

学費・生活費と同様に、これ以上親に負担をかけられないといった現状がここにも表れています。特に遠方から通学する学生にとって、通学費が大きな負担となっており、4人に1人の学生が、奨学金を定期代に充てたと回答しました。

第5位 部活動 (48人)

大学生活において、学業と同様に部・サークル活動に力を入れたいと考える学生はいつも多く、そこに金銭的な問題が関わってくることは言うまでもありません。充実した学生生活を送るために学生は日々努力をしています。

第6・7位 資格検定(44人)・就職活動(42人)

学生生活の先にある進路に対して、学生は夢や希望を持っています。それを実現するべく学業に励み、必要な資格の取得や検定の合格を目指しています。また、就職活動に費用がかさむと回答している学生も目立ちます。スーツの購入、セミナー参加費、交通費等の必要諸経費に加え、活動中にアルバイトができなくなり、奨学金によって助けられたと答えた学生もいました。

第8位以下 留学、通信費、その他

「金銭面で一步踏み出せなかった留学に挑戦できた」、「今までお金がないから諦めていた海外ボランティアに挑戦できた」など、『奨学金＝夢への後押し』と回答する学生がいました。



4. 奨学生の声(一部抜粋)

感謝のメッセージをはじめ、奨学生から寄せられたさまざま声をご報告いたします。

【感謝のことば】

青山学院大学の学生支援は、学生のやる気と学ぶ気持ちを奮わせる大変素晴らしい制度だと感じています。就職への資金の不安を抱えたままペンを握るのは容易なことではありません。今回の私のように、寄付者様のお心遣いで今後もたくさんの学生の不安が晴れることを祈っております。
(教育人間科学部 3年)

赤の他人と言っても良い私に奨学金を提供してくださった寄付者の方へ感謝しつつ、責任感をもって勉学等に取り組んでいきます。また、将来は私自身が今回奨学金をいただくことができた様に、自分と同じような境遇の学生へ提供する奨学金を寄付できるような存在となることで寄付者の方への感謝の気持ちをあらわしたいと思っております。
(文学部 3年)

私が何よりも感謝したいのは、給付型奨学金となって私たちがお受けすることができたということです。日本で給付型奨学金はとても珍しいことです。私のような普通の学生が受けられるものだとは思ってもみませんでした。ですが、本来は給付型奨学金がもっと一般的なものであるべきだと思います。私は返還の必要がない奨学金によって学びの自由や学生生活の充実が得られました。寄付者様の教育への関心とご支援に心から感謝しています。

(社会情報学部 1年)

私自身も両親から教育された「人にしてもらいたいことは何でも、あなたも人にしなさい」という聖書の言葉を大切に、青山学院大学で多くのことを学んでいきたいと思っております。本当にありがとうございました。今後は寄付者の方へのご期待に応えられるよう日々感謝の気持ちを忘れず精進していきたいと思っております。

(教育人間科学部 4年)

【研究活動への専念】

書籍の購入や論文の印刷費等の研究活動のために使用しています。研究分野が国際関係ということもあり、また中国に関する研究を行っているため、洋書を買わなければならない場合もあります。近年、洋書の価格が上昇しており、この購入費用の工面に苦労していました。奨学金を受給できたおかげで、研究に必要な文献を買い揃えることができました。

(国際政治経済学研究科 博士後期課程 1年)

情報工学を専攻とする学生でありながら、今まで自宅に研究用のパソコンがなかったため、講義や研究でいつも遅れをとっていました。自宅に研究用のパソコンを用意できたことで、研究に充てられる時間が増えました。 (理工学研究科 博士前期課程 1年)

本奨学金の案内があり、藁にもすがる思いで応募いたしました。学費以外にも、定期、外部施設への出張、学会への参加等の費用がかかりますが、奨学金のおかげでお金の心配をすることなく研究活動に専念することができています。

(国際政治経済学研究科 博士後期課程 1年)

【厳しい家庭事情、経済状況】

私の家は幼いころから母子家庭で、大学進学もほぼ無理というほどまずしく、この奨学金がなければ、学費を納めることはむずかしかったと思います。私も、大学を必ず卒業し、ゆくゆくは恵まれないまずしい子どもたちや若者のために寄付をし、遠回りながら寄付者の方々に恩返しができるばと思います。 (文学部 2年)

奨学金はすべて学費に充てさせていただきました。私の家は母子家庭で、母が主に生計をたっているため、給付金のおかげで経済面での負担や精神面での負担が減り、大変感謝しております。 (法学部 2年)

本学には数多くの大学院生が在学しています。中には家計等の問題もあり、研究や生活面で四苦八苦している学生もいるかと思えます。そのような学生の苦労や努力が一人でも多く報われるように、今後も本学の奨学金制度が拡充していくことを望んでいます。

(国際政治経済学研究科 博士後期課程 1年)

今年の春より静岡県にある自宅から通学することになりました。通学にかかる費用がとてまかかってしまうため、今回、青山学院スカラーシップの奨学金を受けることができ、とても助かりました。私の学費が家族の負担になっていると感じることが多々あったので、奨学金を受け、少しでも家族に対する負担を減らすことができ、本当によかったと感じています。せっかく頂いた奨学金を無駄にせず、有効に使わせていただいています。今回頂いた奨学金のおかげで新幹線で自宅から通学することができています。 (女子短大 現代教養学科 2年)

【こころの変化】

頂いた奨学金が、青山学院大学からの奨学金ではなく、青山学院に関わり理解を示して下さった皆様からの寄付による奨学金であると考え、ますます学問へ励まんとする意志が芽生えたと共に、皆様の期待に応えなければならないという責任感も生まれてきます。

(国際政治経済学部 2年)

卒業後は、社会人として学生時代の学びを活かしながら何らかの形で社会貢献をしたいと考えています。現在、奨学金のお陰で学業に専念することができているので、ここでの学びを将来につなげるという部分まで今後は真剣に考えていきたいと思っています。奨学金の受給によって将来の自分の有り方の考え方も変化したように思います。

(文学部 4年)

奨学金を頂いてから、一番大きく変わったのは新しいことにチャレンジする余裕が生まれたことです。興味があったボランティア活動に参加し、途上国の子どもたちと関わりが持てました。また、勉強をする時間をしっかりとれたため、課題や予習復習だけでなく、夢の留学にむけての勉強をすることができました。

(国際政治経済学部 2年)

【ボランティア活動の充実】

私が大学で自分の学びを深めるためにしたかったことは、ボランティア活動です。私は子どもと関わることや貧困に関心をもっており、国内外でボランティア活動をしてきましたが、アルバイト代のみで活動するのは厳しいものでした。私は今年の2月に大学の授業のプログラムとしてインド研修に行き、インドの貧困の問題や女性の権利などについて学び、考えを深めようとしています。これも奨学金を受けられるからこそ行けるものです。今回奨学生に選ばれたことを忘れず、心に留め、今後の学びをより深めていきます。奨学金の用途は、2015年度後期の「サービス・ラーニングⅡ」という科目の有志プログラムである「インド・サービス・ラーニング研修」への参加費用に充てさせていただきます。

(教育人間科学部 2年)



奨学金は、内閣府主催「東南アジア青年の船」事業の参加費の一部として使用させていただきました。この事業は日本代表青年 37 名と ASEAN 11 ヶ国総勢 330 名の青年が 1 つの船に乗り、ディスカッション、各国紹介、寄港地訪問等を行い、日本とアジアの友好を深めるものです。私は小さい頃から国際交流に関心を持っていたため、この事業に参加でき、非常に嬉しく思っております。今後は、奨学金を頂いた学生として、活躍していきたいと思っております。

(経済学部 2年)

今年の 8 月にブータン農業ボランティアに参加するための費用として使用しました。途上国であるブータンに行くことで、様々な経験をし、今までの価値観が全て覆されました。また日本という国がどれだけ恵まれているかを身を持って感じました。私は平和とは何かという答えを自分なりに探すために大学で国際政治を学んでいます。このブータンでの経験を活かして、将来国際協力をしたいです。そのために大学の授業により積極的に出席して、たくさんの方のことを勉強したいです。

(国際政治経済学部 2年)

【社会貢献・恩返し】

私は国家公務員の専門職を志しておりますので、今は受験勉強に精一杯励むことで、お礼に代えさせていただきます。法務教官となった暁には、与えてもらった以上に今度は社会の一員たるべき非行少年に慈愛や教養、職業訓練、生活指導などを与えることができれば本望と思っております。奨学金によって学んだこと、悟ったことの大きさは計り知れません。

(教育人間科学部 4年)

本奨学金は青山学院に関係する様々な人が寄付をして成り立っている奨学金だということを知りました。自分が青山学院大学で学ぶことができているのはそのような方々の支えがあるからだということを絶えず心に留め、私が社会へ出た後は与えていただいたもの以上の貢献をできるよう更に勉学に励みたいと思います。

(国際政治経済学部 2年)

今後は、青山学院大学の学生としてだけでなく、自分が奨学生として寄付者の方々に支えられているのだという自覚を持ち、より一層勉学に励んでいきたいと思っております。自分が大学を卒業し、社会に出たら、今度は自分が学生たちを支える立場になれるよう、日々学んでいきたいと思っております。

(理工学部 1年)

【決意のことば】

このチャンスを活かし、学業と日々のボランティア活動との両立に励み、私を応援して下さいた皆様のように、将来は私自身が周囲の若者や子供たちを応援し支えることができるような人になりたいと思います。
(女子短大 現代教養学科 1年)

「この人に奨学金を寄付して良かった」と思われるような人になろうと最善を尽くしていきます。
(文学部 4年)

残された大学生活の中で、1つでも多くのことを学び、そして青山学院大学のスクール・モットーである「地の塩、世の光」としてキリストの香りを放つ者とありつづけたいと思います。青山学院宗教センター奨学金を支えてくださっている皆様方に日々感謝を覚え、誠意をもって学生生活を送っていきます。
(国際政治経済学部 3年)

寄付者にいただいたチャンスを無駄にすることなく、大学生活を楽しみながら、自分の夢に向けてしっかり勉学にも励みたいと思います。
(理工学部 1年)

勉学においても、部活においても、もっと上を目指せると日々努力しました。それでも思うような成績を残すことはできず、絶望してしまうことも多くありました。それでも前を向いて頑張ることができたのは、数えきれない人々の支えがあったからです。今の自分は青山学院大学があったからここまで成長することができたと思います。まだまだ未熟な人間ではありますが、社会人として生きていく中で困難に苛まれたとしても、青山学院で培った「人への感謝の気持ちを持つこと」や「熱意を持って主体的に行動すること」に、失敗を恐れることなく取り組んでいきたいと思います。これから先は後輩たちがますます青山学院という素晴らしい環境で学ぶことができるようになるために、寄付する立場になります。
(法学部 4年)

～編集後記～

奨学金は夢や希望を後押ししてくれる存在であり、大きな原動力となっています。寄付者の皆様方の温かいご厚志に対する感謝の心を忘れることなく、更なる可能性に向けて、学生たちは努力を続けています。無限の可能性を秘めた彼らの未来が明るいものになるよう、青山学院スカラシップの充実に努めてまいります。引き続きご理解を賜りたく、お願い申し上げます。

